



公共交通については、高齢化の進展や人口減少の影響による交通需要の変化を見据えた対策が必要であり、北斗市が抱える公共交通の課題解決に向け、持続可能な地域公共交通のあり方に関する計画の策定を進めてまいります。

7 安心できる福祉・暮らし 身近な環境の向上

子育て支援をはじめ、高齢者や障がい者の保健福祉、また、市民の健康づくりのための施策や各種の医療費助成制度は、新年度におきましても、サービス水準を維持するとともに、一部施策の拡充を図りながら推進してまいります。「手話言語条例」については、引き続きその普及・啓発に努めることとし、新年度では、「障がい者福祉計画」及び「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、それぞれの施策の充実・展開を図ってまいります。

市民の自主的な健康づくりに対しては、疾病予防に努めていただくことが重要という考えから、各種検診や各種予防接種に対する費用の助成を引き続き実施するとともに、特定健康診査の受診率向上対策としてAIを活用した効率的な受診勧奨を行うてまいります。また、幼児の虫歯予防のため、1歳半から3歳半まで合計5回のフッ素塗布を全額助成することとしております。

これら主要施策の裏付けとなる新年度の予算では、地方債や基金の依存度が依然として高い状況にあると

豊かな心と健やかな体の育成

豊かな心の育成については、素晴らしい音楽を聴いて、美しい景色や絵画を見て感動する心、何かを体験して充実感を得ることなど、多くの活動の中から、一人ひとりの可能性を引き出すことにより、子どもたちの自尊心を高めることが大切であります。学校教育だけでは限界もあることから、家庭・地域における協力や社会教育活動において対応していかねばならないと考えております。

健やかな体の育成については、令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、小学校男女、中学校男子で全国平均を超える数値となっており、中学校女子については、今まで大きく全国平均を下回っておりましたが、今回の調査では、全国平均とほぼ同じ水準まで上昇しております。これについては、はつきりとした分析はできておりませんが、ラジオ体操の習慣化や学校における授業改善の成果ではないかと考えております。今後におきましても、体育の授業にタブレットを活用しながら、子どもたちが楽しく運動に取り組みめる授業づくりを進めてまいります。

考えており、『事業の選択と集中』の考え方の浸透を図りつつ、予算編成を行ってまいりました。予算成立後におきましては、十分な効果を引き出すよう施策の推進に最大限努めてまいります。

市長に就任した当時から財政状況に予断を許さない状況ですが、市民の暮らしを守る施策や将来の発展に繋がる投資は引き続き実行していくかなければなりません。人口減少問題への取組みのほか、7つの政策目標への取組みのため、PDC Aサイクル、行財政改革、そして市民との情報共有を一層意識し、私が先頭に立ち、市役所全職員一丸となって施策の推進に当たってまいります。改めて申し上げます。

まちづくり

就任当時からSDGsの理念と、『市民目線に立ち、市民による市民のためのまちづくり』を進めること、この二つの理念を忘れずにこれからも全力で市政運営に取り組みまいります。北斗市議会議員と市民のみならずさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年度に当たつての所信といたします。

信頼される学校づくりの推進

学校は、子どもの家庭環境や保護者の考え方等について理解を示したうえで、学校としての指導方針を明確に伝えていくことや、個々の子どもにあつた指導や助言を行うことが、学校に対しての信頼を得ることになるのではないかと考えております。また、子どもたちが家庭や学校内での心配事や不安に対して、気軽に相談できる体制について見直しをしなければならぬと考えております。

災害や事故発生時における避難や応急処置については、日頃からの学習の中や土曜授業を活用して、地域住民とともに危機管理意識・防災意識を高めることが今以上に必要になってくると考えており、外部講師等を招き必要な知識の習得にも力を入れていかねばなりません。さらに、学校は避難場所として活用されることから、避難住民に対して学校が対応できることなどについての意識の高揚や実際に何が出来るかを考えていくことも必要であります。

学校給食共同調理場については、子どもたちへの安心・安全な給食を提供していくためにも、大型調理機器の更新を順次進めてまいるとともに、事故などの発生がないよう衛生管理の徹底に努めてまいります。

北斗市で生涯学習社会の実現

社会教育は「生涯学習の理念」として、市民のみならずが豊かな人生

教育行政執行方針

社会で生きていく実践的な力の育成

新学習指導要領が全面実施される小学校では、新たに高学年において英語が「教科化」され、小学校から中学校への接続と実用的英語を身に付けさせることが大きな課題であります。小学校1年生から英語に親しむ環境づくりを行い、中学校3年生までの9年間を見通した英語教育に取り組むために、英語検定における検定料の助成を実施してまいります。プログラミング教育についても、北斗スタンダードを確立していくとともに、子どもたちがプログラミング教育について興味・関心を持つて積極的に取り組んでもらえるための教材開発を進めてまいります。

また、正式な教科となる道徳については、「がん教育」を通じて、「生命の尊さ」、「生活行動が関わって起こる病気の予防」、「日常生活や学習への適応及び健康安全」などを学び、命の大切さを子どもたちと共に考えていくことについて、小学校段階においても取り組みを進めていかねばならないと考えております。

コミュニケーション能力については、各学校が実施する事業や中学校区内で小学校と中学校が連携した事業を行い、学校と地域住民がより良い連携を図らなければなりません。その事業の一つとして、土曜授業の中で、地域とともに防災意識の向上を図り

を送ることができるよう、その生涯にわたつて、あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができなければなりません。また、子どもたちが学校教育だけでなく、地域住民との関わりやさまざまな体験活動をおこなうことにより、自尊感情の向上やコミュニケーション能力の向上に寄与するものと考えております。今後におきましては、音楽を生かした体験活動など新しい取組みを行い、これからの時代におけるニーズに対応したものにしていかなければならないと考えております。

青少年の健全育成については、幼少期における家庭教育が基本であることから、関係部署との連携を密にして、家庭教育における学習機会の提供に努めていくとともにこれからの国際社会において、SDGsの理念に基づき、社会教育事業を通じて取り組んでいかねばならないと考えております。

図書館については、情報化の発達と進展に伴い、いつでも、どこでも必要な情報が入手できる時代となり、図書館利用者が若干の減少傾向にあります。子どもたちの時から本に親しむ環境づくりを進めるとともに、図書館事業に関わるボランティアの育成にも努めていかねばならないと考えております。

文化財については、郷土資料館における常設展示や特別展示において興味・関心を持っていただけるような事業展開を実施します。

スポーツ活動については、市民の皆様が生涯において明るく健康で過ご



教育長 永田 裕

ながら推進してまいります。また、特別な支援を要する子供たちについては全学校にICT教育環境を整備されたことから、より効果的な授業展開を研究するとともに学校生活におけるさまざまな問題や困りごとについて、相談できる体制の強化を図ってまいります。

教職員の働き方改革については、北斗市働き方改革プランに基づき、部活動の休日設定や保護者対応における役割分担をしっかりと実施していくとともに、ICT機器を活用した教材成果や資料の共有化による事務処理の効率を図り、小学校高学年において、教科担任制を今まで以上に増やしていかねばならないと考えております。また、教職員の勤務時間の管理については、タイムレコーダーを導入し、管理職による勤務時

していくために、スポーツの楽しみや必要性を理解し、気軽に楽しく体を動かす機会の提供にも努めていかねばならないと考えております。

また、ラジオ体操については、小中学校において正しいラジオ体操が浸透しております。近年では、幼稚園や保育園におきましても運動指導の中でラジオ体操を取り入れてきており、さらなるラジオ体操の普及に努めてまいります。

まちづくり

いま、社会では超情報化時代へと変容することにより、さまざまな分野において多くの問題や課題が発生しておりますが、学校教育においても物事を論理的に考える力、自ら課題を解決する能力、コミュニケーション能力を身に着けることが重要であるとされております。また、学校・社会教育事業の中でSDGsのことを念頭に置きながら事業を進めてまいりたいと考えておりますので、行政・学校はもちろんでありますが、市民のみならずのご理解とご協力をお願い申し上げます。

北斗市が今後ますます発展していくためにも、これからの時代を担っていく子どもたちが、健やかに育っていくことを願い、教育の充実に誠心誠意努力してまいります。